

**先** 日、MAGの2階に初めてお邪魔しました。おみやげの充実感にびっくり

このほか4通のお便りをいただきありがとうございます。文章は紙面の都合上要約させていただきます。ご了承ください。

観客を飽きさせることのない二人のトークには時間を忘れて引き込まれてしまいましたね。地元藤岡から夢を諦めずに追いかけた二人のお話には夢や希望をもらった人も多いいのではないのでしょうか。

(60代・女性)

**み** かほみらい館で行われた中山秀征さんとFMぐんまの内藤聡さんのトークショーに行ってきました。お二人は同じ学校の先輩、後輩であり、なかなか面白い時間を過ごしました。中山秀征さんの元氣な歌とダンスのステージは圧巻でした。また、このような機会を願います。

身も心も引き締まる思いになりますね。羽咋市にある妙成寺は本堂や書院など多くの建築物が重要文化財に指定されている歴史ある寺です。姉妹都市羽咋市へぜひ行ってみてください。

(50代・女性)

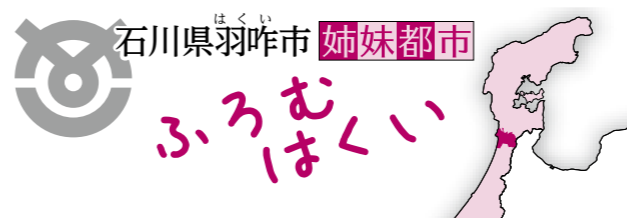
**姉** 妹都市である羽咋市からの、妙成寺の僧侶による寒水荒行の記事を身が引き締まる思いで読みました。平安な一年であってほしいと思います。(60代・女性)

道の駅上州おにし内にある体験学習館MAGでは地元の特産品をはじめ各種お土産を取りそろえています。食堂・喫茶コーナーではおいしい手打ちラーメンやダムカレーなども味わうことができますので、ぜひご利用ください。

**寄せられた声**

**ま**ちの**声**

みなさんからの声を紹介します。  
※プレゼント当選結果とは関係ありません。



↑今年2月に歴史民俗資料館で開催された企画展の様子。

**企画展で歴史探る**

**貴重な獅子舞文化を後世に**

獅子舞は、江戸時代に伊勢から江戸に伝わり、全国的に広まっていったと言われています。羽咋市でも江戸後期に使用されていた獅子舞道具が残されており、現在、獅子舞は各町会や神社ごとに伝承され、お祭りなどで披露されています。

羽咋市の獅子舞は、獅子の形や演目の違いから在地型の“能登獅子”、富山県から伝わった“越中獅子”、金沢市から伝わった“加賀獅子”の3つの型が入り交じっています。この貴重な文化を後世に伝えていくため、平成27年に獅子舞活性化実行委員会が立ち上げられました。毎年、歴史民俗資料館では獅子舞道具などを紹介し、羽咋の獅子舞文化を発信していく取り組みが行われています。

**プレゼント**

皆さんの声を募集します。本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。「まちの声」で紹介いたします。

※個別の回答はしません

**応募・問い合わせ** ハガキかメールに住所、氏名、性別、年齢、電話番号、まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報広聴係「まちの声」応募係・hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

お便りをくれた人の中から、ねぼけ堂より焼かりんとうを5人にプレゼント。応募締め切りは3月16日(金)当日消印有効です。

※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます



**黒糖とお芋の焼かりんとう**

油で揚げないヘルシーな焼かりんとう。新食感をお楽しみください。

美味しいお菓子作りを先祖代々継承すること150年余り。伝統の菓子製法を守りつつ、どこか懐かしく、でも新しいねぼけ堂のお菓子をご賞味ください。

**ねぼけ堂**

藤岡市中栗須827 ☎0245630  
営業時間/午前9時～午後6時(日曜日・祝日は午後5時30分まで)  
定休日/なし

プレゼントの提供者を募集しています。  
秘書課広報広聴係☎0245630までご連絡ください。

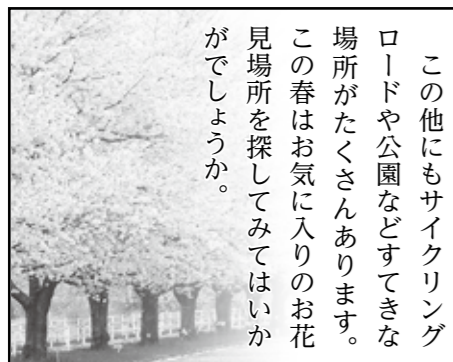
**耳より情報**

**サクラが咲いたら出掛けませんか？**

日差しが暖かくなり、草花が芽吹く季節になりました。春の植物といえぱやっぱりサクラ。市内では3月中旬から河津桜が、下旬からはソメイヨシノなどが楽しめます。

- ★お勧め桜スポット
- ★ふじの咲く丘(河津桜・ソメイヨシノ)
- ★七輿山古墳(ソメイヨシノ)
- ★白石稲荷山古墳(ソメイヨシノ)
- ★土と火の里公園(ソメイヨシノ)
- ★桜山公園(ソメイヨシノ・冬桜)

この他にもサイクリングロードや公園などさまざまな場所がたくさんあります。この春はお気に入りのお花見場所を探してみたいかごめでしょうか。



**ふじおか Culture**

～藤岡の文化を探る～ No.24

問い合わせ 文化財保護課(☎0245997)

**関流免許**

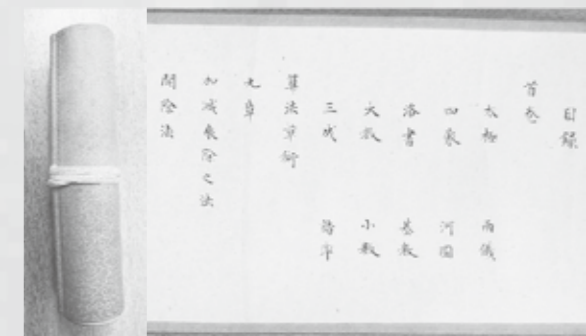
～和算の流派と免許制度～

和算は、その発展と共に、師と門人集団で構成される流派がいくつか生まれました。そして門人たちは一定の技能を認められると、師から免許を与えられました。

和算の主要な流派として、関孝和の没後、孫弟子(二伝)の松永良弼、またはその弟子(三伝)の山路主住が、「関流」を成し、免許制度を作ったと考えられています。写真は市に寄贈された巻物で、題箋はありませんが関流の5種ある免許のうち最初に受ける見題免許とみられます。この免許は、本庄市児玉町で明治中期～大正頃に活動した「数学館」という私塾の主が、元治元(1864)年に授与されたもので九伝となります。さらに子息が十伝を称した資料も伝わります。本市関係での関流免許所持者には、明治8(1875)年に授与された八

伝・岸幸太郎がいます。

なお、群馬県に関流の和算家が現れるのは前橋市の石田元圭(五伝)、安中市の小野栄重(六伝)あたりからのようです。また、和算とは別に日常生活の中で必要な計算術の指導者もありました。



関流の見題免許とみられる巻物